

■論説・開発と文化財／稲垣栄三／開発と自然保護／大井道夫 ■実例に開発の現況を学ぶ
／1. 国立国際会議場周辺の自然・文化景観の破壊／田辺眞人／2. 河川工事の実例／小坂
忠／3. 国立公園内の電源開発／吉越盛次／4. 古都でのできごと／安田靖一／5. 生活
侵害と鉄道／吉村 恒／6. 道路と自然，文化の取りひき／齊木三郎 ■開発は進められな
ければならない／1. エネルギー／吉越盛次／2. 交通／渡辺新三／3. 都市再開発の方
向／米谷栄二／4. 観光開発の方向を探る／鈴木忠義 ■座談会・開発／社会／自然

特集・開発は社会と自然を変える

土木学会誌編集委員会

《特集にあたって》 廿世紀後半は，開発の時代であるとさえいわれる。

特に人口密度高く，狭い国土に高度かつ集中的な経済発展を進めつつあるわが国においては，開発は目まぐるしいテンポで進行する。建設技術の革新と経済の発展は，かつては不可能視されていた大工事をつぎつぎと実現させてゆく。ために，わが国土は急速にその粧いを変えつつある。

開発は必然に破壊をとまらぬ。長い歴史を経てせん細に手が加えられてきたわが国土に対しては，相当に大きな影響を国土に与えずして大規模開発を行なうことはできない。ときにそれは深刻な破壊をとまらぬ，自然の顔を一変させる。ここに開発が自然に与える影響についての深い読みが要求される。

われわれの文明が築かれた母胎であるこの自然そのものと，自然に対する技術，いわば自然と人間との会話を静かに深く聞く能力なくして，開発が無軌道に進められるならば，開発即破壊ということにもなりかねない。

開発が国土全体に強力に進行してゆくならば，それは単に自然を変えるに止まらず，この国土に築かれてきた社会と文化にも大きな影響を与え，さらには開発そのものが文明発達史の一翼をになうことにもなるであろう。

開発が広汎にわたってきた今日，開発の先端に位している土木技術者としては，いままでとははるかに深刻に，開発と社会，開発と自然との関連を重視しなければならなくなった。開発はわれわれに与えられた任務であるとはいうものの，もはや表面的な開発をのみ猛進させれば良いという時代ではなくなってきた。前述の観点に立ったうえにこそ，より高い次元までの開発が期待し得られるであろう。

われわれが〈特集・開発は社会と自然を変える〉を企画し，新年に当たり会員諸氏に，いつもとはやや異なる位置から，われわれの土木技術を考える糧を提供しようとする意図はここにある。土木技術が，これからの日本においていよいよ重要な地位を占めようとする今日，新たな観点から土木技術を眺め，会員諸氏とともに思索，その責任を自覚し合おうと考えるゆえんである。

しかし，このような展望はもちろんまだ試みられておらず，この特集においてはむしろ問題点の提起に力を注いだ。特集に拾われたのは，〈開発と社会と自然〉をめぐる一面に過ぎないであろう。これらを手がかりに今後問題の核心を究めてゆこうというのが，われわれの希望である。

まず，最近問題になっている開発と文化財，開発の自然保護についての一般論を会員外のそれぞれの専門家から意見を聞こう。